澳國豫筭會計管理法

一

✓ 米ノ

2057

114
A1623
1

墺地利國豫筭會計管理法新定ノ訳

附「コントコーレンテ」ノ簿記法ニ屬セル理論及ヒ實行ノ簡明ナル示教法「レクイデーシヨン」ノ簿記法及ヒ會計檢査ノ方法ヲ掲示ス（但シ巻末ニ会計表ヲ付シテ之ヲ詳ニス）

紀元一千八百六十八年維也納ニ於テ

墺地利鎮臺議官兼「スタヤーク」「ケルヌテン」「クライヌ」三州官立會計學試驗事務局長

「ヂヨセフ、カラサンス、リヒウニヘーグル」

大藏省

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

緒言

澳地利受府ニ於テ一千八百六十三年ニ至リ國家ノ豫算簿編製法及ヒ理財法（理財法ハ豫算等ヲ以テ支出スヘキ費額ト收入スヘキ税額トヲ立法院ニ於テ認許セシモノヲ云フ）ヲ以テ確定セル行政各司ノ分額金之ヲ「フレリミナルス~~イ~~クヲテン」ト云フ支出ノ管理法ト國家會計ノ組立方及ヒ總決算ヲ齊整スルトノ事ニ就キ新法ヲ制定スルノ緊要ナルヿヲ領認セリ

此新制ノ會計法及ヒ検査法ハ当時設立セル上等會計検査院商議ノ上皇帝陛下ノ裁可ヲ経テ一千八百

六十七年第一月一日之ヲ発行シ大藏卿之ヲ其各官局ニ命シテ執行セシメタリ

茲ニ此新法ヲ制定スルノ日的ヲ説明セン為ノ其大要ヲ掲載シテ之ヲ示教スル丁左ノ如シ

第一　次期行受年度ノ為メニ制定セル歳出歳入ノ豫筭表ヲ明瞭ニシ及ヒ各分額（分額トハ豫筭高ノ内訳ニシテ即チ各省局ノ定額ヲ謂フ下是レニ倣ヘ）ノ豫筭同一ノ法ヲ以テ之ヲ組立ルモノナリ

第二　理財法ニ於テ制定セシ豫筭分額ノ金高超過セサルヲ要ス

第三　全國ノ會計ハ該年度ノ歳出歳入ヲ帳記シ以テ之ヲ整頓セルヲ要ス故ニ國家會計ノ組立方ハ該廳ノ為メ全ク収入支出セシ金額ヲ記載スルモノニシテ是迄ヅルクラウベンシテンゲバルンシレ通ヒ勘定ト唱ヘシ會計ト區分ス可シ（此類種アリト雖𪜈之ヲ要スルニ一時他廳ノ為メニ立替シ金額ノ類ニシテ甲ノ帳簿ニ支出ヲ記セハ必ス乙ノ帳簿ニ收入ヲ記シ之ヲ戻シ入レスシテ勘定スルヲ云フ）

第四　当行政年度ノ豫筭ニ属セル収入支出ノ

金額ト前年度ノ豫美ニ属セル収入支出ノ金額ヲ區分シ其會計ヲ明瞭ニスヘシ

第五　当年度ノ出納ヲ決筭シテ其剰余不足ノ金額ヲ明瞭ニシ不足ノ金額ハ之ニ充足スヘキ方法ヲ設ケ剰全余ノ金額（即チ金庫ニ残ル所ノ金額）ハ次期行受年度ノ豫筭ニ操繰越スヘキヿヲ顯シ而シテ現在ノ収入支出高ト理財法ヲ以テ制定セシ豫美ノ分額（即チ定之額）ト差異アルヲ詳ニス可シ

此新間制ノ豫算会計検査法ハ従前ヨリ現時ニ至ルマテ執行セシ所ノ法トハ固ヨリ異ナルヲ以テ茲ニ其法ノ大要ヲ説明センカ為メニ其條款ヲ設ケテ之ヲ掲示スルヿ左ノ如シ

歳入歳出豫算ノ事

第一　國家歳入歳出ノ豫筭ハ行受年度毎ニ編製シ國憲ニ従ヒ立法院ニ於テ之ヲ議定スヘシ

第二　行受年度ハ第一月一日ニ始マリ第十二月三十一日ニ終ルヲ法トス

第三　此豫算簿ハ次期ノ行政年度ニ至ルハケ

月前ニ之ヲ制シテ立法院ニ出スヘシ

該國ニ於テハ國政變革（即チ匈牙利ト墺地利ト分離セシ事）ノ為メ一千八百六十八年ニ制定セシ所ノ豫筭簿ハ分テ二ト為ス其一ハ墺地利國ノ豫筭簿其一ハ墺地利國ト匈牙利國トノ間ニ共同合立セル事務局ノ経費ニ属セル預筭簿是ナリ（即チ外國事務軍政事務ノ如キモノヲ云フ）而シテ此ノ如キ豫算簿ハ墺地利及ヒ匈牙利ノ立法院ヨリ派出スル委員ニ於テ之ヲ議定スルヲ法トス

第四　豫筭簿ハ歳入歳出ノ部分ヲ區分シテ該行政年度中ニ収入スヘキ歳入ト支出スヘキ歳出トノ金額ヲ登録スヘシ

或ル歳入ノ部分中別ニ租税徴収ノ為メ成立セル行政官署ノ経費ト並ニ預メ其収税費ヲ差引減除ス可カラスシテ収入支出ノ全額ヲ掲示スヘシ

各省局官吏ノ退隠料（守息並）及ヒ其遺族ノ扶助料トシテ給與スヘキ金額ハ特ニ其部分ヲ設ケテ

各本属ノ廳費ト之ヲ區別スヘシ

第五 各省各廳ノ経費ハ常費ト臨時費トヲ區別スヘシ

第六 國家ノ歳入歳出豫算簿ハ各省各廳及ヒ其所管ノ各部局ニ於テ編製セシ帳簿ニ就テ之ヲ制定シ而シテ其金額ハ章條ニ科目ヲ分チ又便宜ニ因リ條ヲ節ニ細目シテ之ヲ分記スヘシ（第一号表ノ参考スヘシ）

第七 各部局ノ預算分額簿ハ其所管ノ分所ニ於テ其科目ニ従ヒ之ヲ編製シ其明細帳ヲ副ヘテ其上局ニ出シ會計局ノ検査ヲ経ルノ後之ヲ該主管ノ本省或ハ本廳ニ出スヘシ（第二号表ヲ参看スヘシ）

大藏卿ハ各省各廳ヨリ送致スル所ノ豫算分額ヲ集合シテ國家ノ豫算簿ヲ編製スヘシ

第八 総テ歳入歳出ノ豫算分額ハ前三年ノ平均ヲ以テ之ヲ編製スヘシ但シ其三年間行政上ニ於テ生スル所ノ差異及ヒ政法變革等ノ為メ其経費ノ増減アレハ之ヲ斟酌シテ豫算ノ額ノ制定スヘシ

定式ノ支出金即チ官吏ノ俸給、手当、宿料、等ノ如キ類ハ一定ノ例規ニ照準シテ之ヲ算定スヘシ

法律上該年度中ニ收入支出スヘキ臨時ノ金額ハ之ニ関係アル局署ト及ヒ其事件ノ記録トニ就テ之カ收入支出ノ明細ヲ陳説ス可キ其主局或ハ會計局又ハ職事會計局トニ由リテ之ヲ預筭ノ部分内ニ記入スヘシ（第三号附録）ヲ參考スヘシ

第九　歳入歳出ノ豫筭ヲ組立ルニ當リテハ該年度ノ出納ニ属スヘキ物ノミナラス又従前ニ（イテルマール）（通ヒ勘定ノ種類）ト云ヘル部分ニ属セル支出收入ヲモ之ニ筭入スヘシ

第十　各州廳ノ豫筭ハ該所管各部ノ分額ヲ集合シ章條其他ノ科目ニ就テ之ヲ編製シ以テ集合~~額~~豫筭分額簿トナス此豫筭簿ニハ各分額ノ内訳及ヒ其関申否ヲ添付シテ之ヲ其主管ノ本省或ハ本廳ニ出スヘシ

定額金支出管理方法ノ事

第十一　毎歳理財法ヲ以テ行政各廳ノ為メニ

制定セル定額ハ常費ト臨時費トノ區別ニ從ヒ其章條節ノ各科目ニ就テ支出スヘキ了ヲ注意スヘシ

第十二 每歳理財法ノ発令有ルヤ各本省、本廳ニ於テ直チニ管領セル各部局ノ豫算金ニ就キテ其費途ニ變革有ルヤ否ヤヲ注意シテ然ル後ケ之ヲ其各部局ニ配付スヘシ

第十三 此理財法ヲ以テ確定セル金額ハ必ス超過スヘカラス各省各部局ノ長官ニ於テハ各其擔当スル事務ノ為メ確定セシ所ノ金額ニ超過セサル樣注意シテ而シテ其各科ノ用途ニノミ之ヲ支出スルノ責任ヲ体スヘシ〔卷尾ノ附錄ヲ參考スヘシ〕

第十四 理財法ヲ以テ確定セシ預算ノ内州ノ長官或ハ各省各廳ノ管轄ニ屬スル各部局ノ長官ニ於テ流用ヲ為シ得ヘキ充分ノ權アルモノヽ他ハ本省或ハ本廳ノ制可ヲ經ルニ非レハ流用支出スル了ヲ得サルモノトス

第十五 理財法ヲ以テ確定セル預算ノ金額該

行政年度中若シ不足ヲ生シ或ハ除クヘカラサルノ事アルカ又ハ猶豫シ難キ事件ノ為メ入出ヲ要スヘキコトアリテ別ニ之ニ供スル金額ナキトキハ其不足ヲ生セシ部ニハ其定額ノ増加シ其除ク可ラスト猶預シ難キノ部ニハ新タニ臨時ノ金額ヲ給ス可シ但シ國憲ニ從ヒ更ニ立法院ノ認許ヲ得ルニ非レハ之ヲ増加スルヿ能ハス

第十六 立法院ニ於テ追加セル金額ハ全國會計ノ内別ニ其部分ヲ設ケテ其増加ノ原額ト支出ノ実額トヲ指示シ而シテ臨時ニ増加セシ金額ハ又其部分ヲ設ケテ之ヲ掲示スヘシ

第十七 理財法又ハ追加理財法ヲ以テ制定セシ豫算定額外ニ超過セシ所ノ金額ハ立法院ノ次會ヲ待テ其事故ヲ辨解スヘシ若シ次會閉院ノ時之ヲ辨解スル能ハサルモ此過額ヲ生セシ該年間ノ全國會計ノ決算ヲ立ル迄ニ必ス之ヲ開陳スヘシ故ニ該主務ノ官吏タル者ハ能ク其増過セシ事故ヲ詳記シテ之ヲ長官ニ出スヘシ

會計取扱ノ方法

第十八　総テ要費ハ其之ニ供スヘキ事件ノ生セシ該官署ニ於テ之ヲ支出スヘシ

第十九　各廳ノ官吏及ヒ従僕若シ自己本属ノ外他ノ局務ニ従事スルヿアル片ハ其食料等ハ総テ従事セシムル所ノ官署ニ於テ之ヲ支給スヘシ尤モ旅費日当ハ其事務ノ如何ニ関セス総テ本属官署ヨリ之ヲ支給スヘシ但シ特別ノ事件ニ就テ之ヲ命セシ片ハ此例ニアラス（第十一ノ附録ヲ参看スヘシ）

第二十　歳入ノ金額モ亦タ前條支出ノ方法ニ均シク豫算ノ科目ニ随テ該行政官署ノ為メニ収入セシ金額ハ該局ノ帳簿ニ記シテ之ヲ計算スヘシ

第二十二　支出擔任ノ官吏其指令ヲ発スルニ当リ常ニ預（豫）算簿ノ科目ニ属スル所ノ費目ニ就テ其支出ヲ簿記シ且其金額ハ當年ノ會計ニ属スルカ将タ前年ノ會計ニ属スルカ（第二号ノ附法ヲ参考スヘシ）ヲ明瞭ニスルノ責任ヲ躰スヘシ（第三号附録ヲ参看スヘシ）

第二十二　全國ノ会計ハ當行政年度ノ為メニ出納セシ金額ト前年ノ為メ出納セシ金額トヲ區別シテ之ヲ整頓スヘシ故ニ各會計局ニ於テハ帳簿上別ニ其區劃ヲ設ケ之ニ收入支出ノ金額ヲ登記スヘシ

第二十三　當行政年度ノ為メニ確定セシ豫算ノ金額若シ支出ノ残贏アリテ翌年ニ繰リ越シ第六月以内ニ支出ヲ要スル片ハ之ヲ傳票ニ付スル丁ヲ得ヘシ然レ氏理財法ニ於テ制定セル費目外ニ之ヲ支出スルヲ許サス又其金額ヲ超ユヘカラス

然レ氏翌年ノ第六月ヲ過テ支出ノ傳票ヲ要スル片ハ該本廳ノ許可ト大藏卿ノ承認トヲ得タル後チ之ヲ處分スヘシ

若シ確定ノ金額翌年ヲ終ルニ及テ尚ホ支出セサル残額ハ已ニ廃棄ニ属セシ者ト認ムヘシ故ニ官吏ノ俸給或ハ國債利子ノ如キ一定セル部分ヲ除クノ外ハ豫算定額金ノ算計ヨリ之ヲ除却スヘシ

此ノ廃棄ニ属セシ金額ヲ再ヒ支出センニハ

翌年度ノ預算ニ記入ヘシ理財法ヲ以テ之ヲ確定スヘシ

第二十四　従来「ドケフヘンテ、レゲナシグ」ト称セル一ノ算計法アリシガ今是ヲ廃止シ唯タ各金庫ノ間ニ収入支出セシ金額ノ假ニ算計スルノ法方ヲ存セルノミ蓋シ會計結終ノ際ニ至リテ各金庫ノ間ニ成立スル假作ノ算計ヲ結終スルナルヘシ

金庫ニ於テ出納ヲ完結スルノ際両金庫ノ間ニ結終スル所ノ假作算計ハ該會計ノ部分トシテ之ヲ処分スヘシ然レトモ本局算計外収入ノ金額ト付托ノ金額ト二種アルトキ出納諸局ハ國家ノ會計ニヨリテ之ヲ区別シ別箇ノ帳簿ニ記入スヘシ而シテ彼此相ヒ関渉スル所ノ償還金額モ亦タ此帳簿ニ記載スヘキモノナリ

従前墺國ノ會計ハ一時ノ立替又ハ貸與金現在支出金ト其區別明瞭ナラス又借局ノ為メニ収入セシ金額ト自局ノ為メニ支出セシ金額ト或ハ付托金等其區別亦タ判

然ナラサルカ為メニ之ヲ改正シ更ニ其帳簿ヲ分設シテ明瞭ナルヿヲ要セリ出納諸局ニ於テ若シ特別ノ事由ニ由リ其金額ヲ理財管理ニ委スル𪜈ハ適当ナル科目ニ組入レテ預筭簿ニ記入シ又之ヲ実収額ト為シテ本筭計簿ニ掲示スヘシ費目ノ已ニ確定セシ者ハ勿論其未タ確定セザル者ホノ為メニ支出スル所ノ金額ト虽モ通常現ニ支出セシ者ト見做シテ之ヲ所分スヘキガユヘニ此未出金ノ支出預メ費目ノ一

定セル者ハ各其適当ナル支出ノ部分ニ記入スヘシ但シ其未タ確定セザル費目ノ支出ハ別ニ償還スヘキ未出金ト云ヘル表ヲ設ケ之ヲ掲示シテ筭計スヘシ此未出金償還ノ計筭ヲ調理スルヿノ便ナランヿヲ要スルカ為メ別箇ノ帳簿ヲ製シテ之ヲ記載スヘシ（第二十六号表ヲ参考スヘシ）

（第二十五）當年度ノ収入支出額ノ筭計ト前年度ノ筭計ト（理財法ヲ以テ確定セルモノ）ヲ區分スル為メニ第二十二條ニ記セシガ如ク各

除ニ分チテ之ヲ記載スヘシ而シテ前年ノ金額ヨリ支出セシ所ノ總額ハ前年ノ出納ノ記スルカ為メ設ケシ條中列ニ小區分ノ設ケ之ニ掲示スヘシ然ルトキハ前年ノ終ニ至リ其出スヘキノ部分ト其取ルヘキノ部分トハ自ラ判然タルモノナリ

第二十六 然レ𪜈其收入ス可キ豫算ノ金額中或ハ免除シ或ハ未納等ノ為メ減額スルヿアレハ其金額ヲ掲示ス可シ但シ此金額ハ通常出納ノ部ニ登記セスシテ詳カニ其事故ヲ示シテ別途仕拂ヒノ部分ニ掲クル者トス而シテ會計ノ時ニ及シテ之ヲ其各檢査官ニ交付スヘシ

國家會計總結筭ノ事

第二十七 毎歳行政事務ノ為メ消費セシ國家会計ノ結筭濟ハ立法院ノ檢査ヲ経テ其認許ヲ得レガ為メニ之ヲ次ノ二年間ニ該院ニ出ス可シ

第二十八 國家会計ノ總結筭ハ上等會計檢査局（現今之ヲ上等會計院ト改称セリ）ニ於テ其

所屬ノ撿査ヨリ出セシ結算帳ニ基キ之ヲ合算シテ大藏卿ニ出シ大藏卿ハ理財法ノ原案〔陳税〕ト共ニ之ヲ立法院ニ送致ス可シ

〔第二十九〕國家會計ノ総結算簿ニハ歳入歳出トモ実際出納金額ヲ掲示シ各科目ノ収入支出額及ヒ配當セシ所ノ金額ト預算ノ金額ト符合スルヿヲ要ス而シテ之ヲ整頓スル片ハ此決算ノ結果ト其預算簿ト比較シテ毎預算分額ヨリ生スル殘額過額ヲ明瞭ニス可シ

〔第三十〕當年ノ會計ト前年ノ會計ニ組入ルヘキ結算トヲ各預算分額ノ決算簿ニ之ヲ區分シテ掲示ス可シ而シテ又此國家結算簿ニハ前行政年度ニ為ス可キ収入支出ノ殘額ト且ツ會計年度中ニ支出セシ所ノ金額免除未納ノ金額及ヒ撿査ノ片ニ生セシ不足ノ為メニ預算額ヨリ刪除セシ減額、終歳結算ノ時ニ至リ収入支出ノ殘額ト其金額収入支出ノ結果ヲ掲示ス可シ

預算分額ノ原由ハ表面ノ端尾ニ之ヲ記入ス可シ

輓近墺國政府ニ於テ金庫ノ管理法及ヒ算計法検査法ヲ定ムル左ノ如シ

第一編

墺國立法院ニ代議員ヲ出セル王國（巴華鶯亜撤遜ノ如キヲ云フ）及ヒ各州

大旨（一千八百六十六年第十一月二十一日國帝始メテ之ヲ発令セリ）

第一　毎歳会計ヲ名〻其長上ニ開申スルハ支出指令官（各省各廳及ヒ州廳）ノ職掌ニ属ス

第二　全國ノ会計ヲ検査スルハ上等會計院ノ任ニ属ス

第三　支出指令ノ権ヲ有セル各官ニハ其故ハ指令ノ権利ヲ有シ銭貨ノ支出ヲ為スヘキカ為メナリ必ス一ノ金庫ヲ附属セリ

第四　各指令官ノ側傍必ス一ツノ算計局ヲ設置ス其故ハ支出指令（「エウイデント」ト「エウイテレント」ハ次ニ其字義ヲ陳述ス）ノ権ヲ保有シ指令票執行ノ正当ナルヤ否ヤヲ監督シ全國ノ歳入ト歳出トヲ簿記シ算計ニ属セル證書ノ誤謬ヲ正シテ其正当ナルヿヲ断定シ該局算計上ノ輔助タラシメンガ為メナリ

第五　或ル會計上ニ若シ之ニ属セル証書ヲ集メテ検査ス可キ事件アル時其検査ノ軽便ナルト算計規則ノ同一ナルト管理ヲ施行スルノ簡易ナルガ為メ各省各廳内ニ各其職務ヲ熟知セル者ヲ選集シテ成立セル特別ノ会計局ヲ設ケテ之ヲ掌ラシム

第六　総テ銭貨支出ノ指令ヲ執行スヘキ任ノ掌トル金庫及ヒ出納局ハ「エター、ヂヨナル」帳簿名ノ内各自ノ現ニ収入支出セル所ノ員額ヲ掲示シ其他通ヒ勘定、本局算計外ノ収入支出、及

ヒ金銭ノ送出、「フヘルラーチ」（「フヘルラーチ」ハ次其字義ヲ陳述ス）先ニ即時結算スベキ現金ハ「コント、コウーレンテ」ノ帳簿ニ記載シ而シテ此帳簿ニ附属セル証書ト共ニ并テ各指令官ニ開申スヘシ

第七　支出指令官ハ毎行政年度ノ終リニ預算簿區分ノ科目ニ随ヒ金庫及ヒ出納局ニ於テ執行セシ総貨ノ筭計ヲ整頓ス可キノ任ヲ負荷セリ即チ昨年間ノ「ゲ゜ペ゜パ゜ル゜ン゜グ゜ズ゜、ア゜ウ゜ス゜ウ゜イ゜ス゜」（昨行政年度中ノ各金庫及ヒ各局ノ出納表ヲ云フ）及ヒ一昨行政年度ノ「バルチクラル、レクヌングス、アブスルス」（各局会計ノ結算）ヲナス是ナリ而シテ是レ等ノ書ハ検査ノ為メ上等會計院ニ送致ス検査院ニ於テモ亦是レ等ノ事ニ因リテ「セントラル、レクヌングス、アプスルス」（前行政年度中ノ全國ノ出納表）及ヒ一昨行政年度ノ全國會計ノ総結ヲ整頓センカ為メ此書類ヲ需要セリ（第二十四号及ヒ第二十五号ノ表ヲ参考ス可シ）

第八　上等會計院ハ各省ヨリ分離セル所ノ一ノ独立局ニシテ其地位ハ各省ニ均シク直チ

皇帝ノ管下ニ附属シテ而シテ全國内ノ理財ヲ總監セリ

各教導法

第一篇

金庫ニ属スル事務

第九　銭貨支出ノ指令ヲ執行スヘキノ金庫ハ左ニ掲示スルカ如シ但シ此新法ヲ用ヒザル所ノ軍務給糧局ハ之ヲ除ク

第一王室ニ属セル金庫〔支出局〕

第二外國事務局ニ属セル金庫

第三全國總金庫

第四普通「カノラル」金庫

第五國債償還金庫

第六各州総金庫

第七煙草製造局ノ金庫

第八各郵便局ノ金庫

第九各傳信局ノ金庫

第十各抽籤金庫

第十一造幣本局、通常礦質分拆局及ヒ金銀質打印局ノ金庫

第十二礦山、鎔鑛及ヒ礦産販買所出納局

第十三税関、租税局及ヒ其他ノ出納局

第十　従来全國ノ本金庫或ハ各州金庫「リクイデーシヨン」局ニ於テ執行セル所ノ「リクイデーシヨン」ハ爾後出納指令本局及ヒ各州ノ官署内ニ設立セル會計局ニ於テ之ヲ執行スヘシ金庫ノ事務ハ唯ニ銭貨ノ収入ヲ調理シ支出ヲ施行スルニアルノミ然ラハ則チ此「リクイデーシヨン」局ハ不用ニ属セルモノナレハ以後之ヲ解散スヘシ然𪜈他ノ金庫及ヒ出納局ハ旧ニ依テ各自カ責任トシテ此「リクイデーシヨン」ヲ執行スヘキモノトス

第十一 金庫及ヒ収納局ノ筭計ヲ一般結終シ閉申スルハ皆ナ同一ノ法ニ従テ之ヲ整斉セリ此一定ノ法式アルガ故ニ其筭計法及ヒ筭計検査法モ亦従テ同一式ニシテ能ク之ヲ検閲スルニ便ナリ

第十二 金庫及ヒ出納局（譬ハ税関、租税局及ヒ其他ノ収納局）ノ筭計ハ各局獨立シテ之ヲ施行シ亙ニ其実地出納ノ筭計ヲ結筭スルカ故ニ他局及ヒ他金庫ニ於テ再ヒ之ヲ精筭スルヲ要セス

第十三 旧法ニ属スル従前「ワーレクノンシ」ハ今後之ヲ廃止ス

第十四 國家ノ歳入歳出ヲ會計スルキハ帳簿上必ス本出納ト假出納トヲ區別シテ記載スヘシ

第十五 本出納ハ「エタ」日用帳ニ之ヲ記入シ假リ出納ハ各金庫及ヒ収納局ニ於テ新タニ作リタル所ノ「コント、コーレンテ」日用帳ニ之ヲ登記スヘシ（第六條ヲ参考スヘシ）

第十六 假リ出納ノ會計ニ属スルモノ左ノ如

シ

第一　歳入ノ各科目ニ區分セル各種ノ歳入内ヨリノ餘贏セル実額

第二　國家ノ預筭簿内ニ編入セシモノニアラス全國ノ會計外ニシテ本會計ニ屬セサル別種ノ財本及ヒ會計ノ部分ニ屬セサル別種ノ収入支出

第三　甲ノ局ヨリ乙ノ金庫乙ノ金庫ヨリ甲ノ局ニ関渉セル立替金（但シ一時立替ノ為メ送出セル所ノ銭貨ナレハ支出金ノ部分ニ記載スルコト無クシテ唯タ其送出金ノ惣額ヲ掲クルノミ）

第十七　此「コント、コーレンテ」日用帳ノ附録ニ當年ノ美計ヲ登記スル[illegible]初メ先ツ昨年ヨリ携帯セル決筭金ヲ掲示シ且ツ全國会計ノ各分額ヨリ生スル各局ノ費用ヲ掲示シ而シテ月末ニ至リ其結筭金ヲ瞭明ニセシカ為メ一月毎ニ分額ノ出納及ヒ其他筭計局ノ出納ヲ登記スヘシ

第十八　「コント、コーレンテ」日用帳ハ金銀

送出ト各州ノ本金庫及ヒ収納局第一課ニ属セル従前日用帳ノ「ウヘルレーゲ」ノ代（之替）ト又金庫第二課ニ属セル従前ノ「ウヘルレーゲ」日用帳ニ記スル事件トヲ并セテ記載スヘシ

第十九　旧科目ニ因リテ此第一課ノ日用帳ニ算計シ来レル所ノ収入及ヒ支出ノ負額ハ今後國家ノ預算簿ニ従ヒテ彼ノ各収入支出ノ「コタール」日用帳ニ記載スヘシ（第六條及ヒ第十五條ヲ参考スヘシ）

第二十　費用ニ充ツヘキ立法院認許ノ金額ハ従来第一局（大藏省ノ第一局ヲ謂フ）ノ日用帳及ヒ國家ノ経費ニ属スル諸局ノ日用帳ニ之ヲ掲載セシヲ今後ハ之ヲ記載スルヲ要セス蓋シ其故常ニ定額内ヨリ支用セル所ノ分額金ノ空乏ナルニ従テ其定額中ヨリ出セル記録ト其現ニ支出セシ金額トハ簿記（譯者云金庫及ヒ會計局ノ簿記タル可シ）ニ掲示シテ其金庫ヨリ拂ヒ出セル金額ハ自ラ國家預支ノ定額ヨリ支出セシ金額幾許タルヿヲ明瞭ニシ[illegible]

ヒ毎歳月ノ結算内ニ之ヲ記入スレハナ
「コント、コーレンテ」日用帳ニモ亦第十七條
ニ掲示セシ如ク其支出ノ金額ヲ明瞭ニス
ヘシ

第二十一　毎月日用帳ノ検閲アルニ因リ國
家ノ會計ニ屬セル諸局ニ於テ互ニ其筭計
ヲ整齊シ會計局ハ其筭計ヲ簿記上ニ調整
スルヲ以テ金庫ニ於テハ各自ノ日用帳ニ
之ヲ裁制スルヲ要セサルモノナリ

第二十二　該會計局右シ本會計外ノ財本式
ハ國家ニ於テ附給セサル會計部分ノ事件
ニ就テ政府他ヨリ受理スヘキ賞還金アル
カ或ハ政府ヨリ他ニ拂ヒ出スヘキ償還金
アルカ本務外是等ノ事務アルトキニ当リテ
ハ金庫ニ命シテ「コント、コーレンテ」日用帳
ニ據リテ之ヲ順整セシムヘシ

第二十三　総テ収納局及ヒ税局ハ各獨立シ
テ筭計ヲ施行シ海関税其他収入セル所ノ
諸税ヨリ拂ヒ出セル金額ハ已ニ各上等
庫ヨリ拂ヒ出セルモノトナシテ之ヲ筭計

セサルカ故以後ニ州ノ収入金庫租税金庫ヲ廃止セリ如何トナレハ該金庫ノ主務トセル所ノ會計管理税金収納及ヒ州ノ本金庫ニ送金スルガノ事務ナケレハ該金庫モ亦不用ニ属セルヲ以テノ故ナリ（一千八百六十六年第十月二十二日大藏卿之ヲ允令セリ

第二十四　州ノ収納金庫及ヒ租税金庫ニ於テ管理セシメアル金額及ヒ其他諸金額ノ管理ト従来施行セシ其他ノ職務ハ一爾来各地方税関及ヒ収納局ノ事務章程中ニ増加シテ之ヲ執行スヘシ

第二十五　総テ収納局ニ収入セル歳入ノ実額ヲ取集シ及ヒ之ヲ算計スルハ州地本金庫ノ職務ニ在リ然レ𪜈或ル土地ノ収納局ニ於テ臨時多額ノ支出ヲ要スルヿアルヲ預メ察知シテ其費用幾許ヲ辨給セサルヲ得サル片ハ現ニ其事情ト郵便通信トノ便宜ヲ斟酌シテ其宜ニ従ヒテ永遠或ハ假リニ此収納局ヲ以テ州地本金庫ノ位ニ充ツ可シ

第二十六　已ニ過了セル規則ニ就キテ各会庁稅関租稅局及ヒ收納局ホノ為メ別ニ一箇ノ規則ヲ設立セリ但シ該金庫、稅関及ヒ両局銭貨ノ管理ニ基キ輓近ノ新定法及ヒ其規則ヲ以テ之ヲ改正セシニ非ラサレハ従来採用シ来レル規則及局内ノ検査官吏ノ責任管理事務ホモ亦之ヲ変改セサルモノナリ

第二篇

會計局ニ属スル事務（一千八百六十五年第十月十四日國帝）之ヲ発令セリ

第二十七　支出指令ノ本署及ヒ州ノ官署ホノ會計局左ノ如シ

第一　王官執事職会計局

第二　外國事務会計局

第四　大藏事務會計局但シ之ヲ六局ニ分ツ

附 第一局直稅会計局

第二局間稅會計局

第三局豫美及ヒ國家ノ本金庫ニ属ス會計局

第四局負債金庫及ヒ公債金庫会計局

第五局大藏事務會計局鉄道事務并（永久年貢）

（償還金庫ヲ兼ヌ年々償還金庫ハ為メニ此大藏事務局ハ職事會計局ノ事務ヲ施行ス）

第六局政府不動產會計局

第五　通商事務会計局但シ駅逓事務及ヒ官立傳信事務ノ為メニ之ヲ分課シテ二トナス

附官立傳信事務會計局ハ職事会計局ヲ兼任ス

第六　司法事務会計局

第七　教部并ニ文部事務會計局

第八　勧農事務会計局

第九　兵部及ヒ警察事務會計局

第拾　烟草製造事務会計局

第十一　抽籤會計局

第十二　海軍事務會計局

第十三　各州廳会計局

第十四　大藏州地出張署会計局（一州ノ大藏監督署及ヒ一區ノ大藏監督署ヲ云フ）

譯者云大藏官署ハ大藏本省ノ直轄ニテ其事務ハ一ニ直税ノ管理ニ止マラス

又会計ノ百事ヲ管領ス該官ヲ分テ十トナス其一ハ各州地大蔵出張署其一ハ各區ノ大蔵監督寮ナリ

第十五　各州上等裁判所會計局

第十六　上等検事會計局

第十七　郵便署會計局

第十八　傳信署検査局

第二十八　各會計局ハ支出指令官ノ一部分タリ抑該局ハ長官一員ヲ以テ該指令官ヨリ分課セルモノトス其長官ハ其本指令官ノ許諾官ト均同ナル官名及ヒ位階ヲ有ス

第廿九　各会計局ノ長官ニ於テハ筭計ノ誤謬及ヒ其他筭計ニ属セル所ノ陳述辯解ニ就テ諸金庫及ヒ諸官局ト直ニ應接スルノ權ヲ有セリ尤自己ニ其事実ヲ決定スル能ハサルトキハ各其主任ノ官吏ヲシテ其事ヲ主トラシム

第三十　各會計局ノ官吏会計ノ規則順序ヲ教導スルノ事ニ於テハ支出指令官長ノ命ニ随フヘシ

第三十一　會計局ノ事務ハ各署局ノ概算ヲ補

助シテ現ニ金円ヲ収入支出スル前第十條ヲ参考セヨ預メ「リクイデーシヨン」及ヒ其金額ハ簿記法ヲ執行シ及ヒ現在収入支出セシ后又該金額ヲ簿記シ該會計局ハ支出指令官ノ局ニ出、仕セスト雖𪜈銭貨、諸證券或ハ物品及ヒ内外ノ検査ニ備ノ可キ附属ノ証書及ヒ適正ナル簿記管理ヲ委任セラレシ所ノ各署局ノ會計ヲ正整管理スルノ権アリ

譯者云現ニ歳入歳出ノ金額ヲ収入支出スルニ先ツ其出入ノ当然タルヤ否ヲ認領シテ之ヲ帳簿ニ記載スルヲ名ケテ「リクイデーシヨン」ト謂フ（獨乙語ニ「リクイテリング」ト謂フ是ナリ）此「リクイテーシヨン」ハ第一公然領収スヘキ金円ヲ受理シ或ハ他ヨリ請求シ来レル金額ヲ償拂スヘキ権利ノ確実タルヿヲ認領スルニアリ第二現ニ収入支出セル金額ヲ認領スルニ在リ其出納金庫ノ権利ニ属スルヤヲ認領スルハ上官ニ由リテ発出セル収入支出ノ指令票ト理財法例ヘハ税則ニ據リテ税関税ノ筭計ヲ為スカ如キヲ云フトニ據憑シ現ニ

其出納ヲ為スヿヲ兼領スルハ亦此上官ニ由リテ充セル證旨ニ基ツク可シ此現ニ收入未出セル前豫メ之ヲ收入シ或ハ支出セルヿノ当然タルヲ兼認スルハ檢査官（會計局）ノ權限タルカ故ニ金庫ノ長官ハ總テノ指令票ヲ該檢査官ニ示サヾルヲ得ス該官ハ是等ノ指令ヲ登記スヘキヿ「リクイデーシヨン」ト称セル一ツノ帳簿ヲ有スヘキモノナリ

第三十二　會計局ハ前章ニ記載セル帳簿ニ基ツキ行政上ノ目的ニ供センカ為メニ會計ノ事実ヲ閲申シ及ヒ該年度ノ出納ヲ編纂シ（ゲバルングス、アウスロイセ）テ國家ノ歳入歳出ニ屬スル各種ノ金額ヲ記載シテ前年ノ筭計ヲ結終ス（レヒヌングス、アップシルツス）

第三十三　大藏省ニ設置セル會計局ハ該年度間一般附屬ノ金庫ト各官局トノ会計ニ就キ其金出納（ゲサムトゲバラングス）ノ監督及ヒ常否ヲ辨決スヘキ權ヲ有セリ

第三十四　各指令官ノ長官（各卿及ヒ州廳ノ長官）ハ会計監督ノ為メニ該年度会計出納ノ

閲申旮「ゲバヌン、スメウスワイセ」及ヒ各会計局長ニ由リ捺印セル前年度ノ結美閲申旮ヲ上等會計院ニ出スヘシ

第三十五　該年度出納ノ閲申旮「ゲバレグスメウスワイセ」ハ現ニ収入支出セシ金額ノ本出納ヲ記入スルノミニシテ假リノ筭計ハ之ヲ登記セス各金庫間及ヒ金庫ノ本事務外ニ設立セル各署局間ニ於ケル金銭出納ハ彼閲申旮中ニ記スルモノニ非ス但シ是等ノ各金庫各署局及ヒ大藏會計局ニ由リテ「コント、コーレンテ」ノ簿記上ニ其事実相證ノ為メ之ヲ記載セリ

第三十六　職事會計局ノ成立ヲ掲示スル左ノ如シ

第一大藏事務局ニハ此職事会計局ヲ分ッテ六課トス

第一　國債課
第二　直税課
第三　税関課及ヒ国産税課
第四　烟草製造課

第五 抽籤課

第六 鑛山塩製造及ヒ々々課

此六分ノ第五課ハ一定ノ土地集貨償還ノ事ニ付キ又職事筭計局ノ事務ヲ執行ス（第三十七條ノ附註ヲ參考スヘシ）

第二貿易事務局ニハ此職事会計局ヲ分ケテ二課トス

第一 郵便課

第二 官立傳信課

此第二課ハ又普通ノ會計局ヲ兼ヌ（二十七條ヲ參看スヘシ）第四勧農省ニハ鑛山監督局ノ費用及ヒ其収入先ニ鑛山商社ヨリ収納セシ税及ヒ貢納金ヲ取リ扱フ為メニ職事筭計局ヲ設置セリ

第三十七 國家ノ会計ニ属セル或ル一省ヨリ他ノ一署ニ係ル算計ノ轉移ヲ便易ニシ及ヒ算計管理ノ確実ナラン為メニ雖七納ニ設置セル職事諸会計局ノ一ニ由リテ監督セル各会計部分ニ関シ各其指令支出官ノ詰所ニ設立セル會計局ハ各金庫ノ出納ノ美計（収入

先ニ支出ヲ簿記セシ后其各職事會計局ニ送
各會計ノ出納ヲ示ス所ノ證劵ヲ送致スヘキ
ヿヲ一定セリ

第三十八　職事会計局ハ各省廳ノ一部分タリ而シテ其局長ノ委審官位タル他ノ會計上ノ報告ヲ得ンカ為メニ該會計局ト通信スルハ尚ホ會計局ノ長官ト同一ナル權ヲ有セリ
〔第二十九條ヲ参考スヘシ〕

第三編

検査ノ分（一千八百六十六年第十一月二十一日國帝之ヲ發令セリ）

第三十九　検査ノ事務ハ一ニ筭計上其筭數ノ当否ヲ検閲スルニ限ルニアラス亦官金管理ノ当否ニ就キテ注意スルヿヲ緊要トセリ是レカ故ニ該検査事務ハ國家ノ歳入歳出又ハ政府ノ所有品増減ノ筭計ヲ検査シテ現ニ成立セル規則ト符合セシカ否ヲ検査定斷スルニアリ

第四十　上等會計院ハ總シテ金銀ノ收納支出ヲ主トリ及ヒ現金出ノ筭計ニアラスシテ簿記上ニ於ケル筭計管理官局ノ會計ヲ検査

スルノ權ヲ有セリ

此上等會計院ハ政府ノ金庫ヨリ扶助金又ハ附與金等ヲ収領セル設立所ノ管理及ヒ會社ノ算計ヲ検査ニ出スヘキヲ命スルノ權ナリ加之政府金庫ヨリ一ツノ附與金ヲ収領セサルモ政府ノ官署又ハ政府ノ官吏ニ由リテ管理スル所ノ設立所及ヒ會社ノ会計ヲ検査ニ出スヘキヲ命スルノ權アリ

第四十一　會計検査ニ就キテ其算計上ニ生スル所ノ異論及ヒ其管理上ニ起ル所ノ疑團議ニ就キテハ上等会計院ハ其異論疑團ヲ審明ニセンカ為メニ此會計ヲ結終閲申セル所ノ官局ト商議スヘシ

此商議ニ於テ其異論疑團ノ定決セサルモノ及ヒ算計ハ各省卿ミツカラ之ヲ結終セシモノニアラサレハ此争論モ亦各省卿ニ由リテ氷解シ難シ故ニ其定断ニ至リテハ之ヲ皇帝陛下ニ上奏シテ断ヲ待ヘシ但シ理財法（議定ノ豫算簿）不注意ヨリ起ル所ノ過失ハ立法院ニ該省ノ結算帳（前年ノ會計）ヲ送出スルトキ

ニ國憲ニ従ヒ該院ニ於テ之ヲ定断スルヲ法トス

第四十二　監督及ヒ検査法ヲ簡易ニスル適宜ノ會計法ヲ保持スルヿニ注意スルハ上等會計院ノ權ニ限レリ及此會計ノ管理ニ関スル官吏ハ總テ上等會計院ヨリ施行スル検査及ヒ監督ノ規則ニ従導セザル可ラス

上等會計院彼会計事務ニ関スル官署、及ヒ該附属ノ算計局及ヒ金庫ノ事務管制ニ関渉スル規則ヲ編制スル𪜈先ツ其官長ト商議ヲ経テ後チ之ニ着手ス可シ

該官長ハ預メ上等會計院ト商議シ兼諾ヲ得ルノ後ニ非ラザレバ会計検査上ニ関スル國家会計規則又ハ金庫規則ニ於テ苟モ之ヲ変革スルヲ得ス

官長ト検査院トノ間ニ於テ此商議ノ調整セザル𪜈ハ皇帝陛下ニ奏問シテ裁決ヲ請フ可シ

第四十三　上等会計院ハ会計局事務ノ管理上ニ就キ之カ事実ヲ確証セシム為メ一負ノ

代理ヲ該局ニ差遣セシムルノ權アリ

上等会計院長其代理ヲ送出スル所以ハ會計局事務上ニ於テ注視ス可キ故障アルトキハ該局管理長ト商議シテ其妨碍ヲ除棄セシム可キニアルノミ

上等会計院政府所有ノ不動産ノ檢査セント要スルトキハ會計局ノ官吏ヲシテ各金庫ノ檢査ヲ為サシムルノ權ヲ有セシム

第四十四條　各州官署及ヒ該官署ノ直轄スル局署ニ於テ檢査スルノ事務ハ總テ上等會計院ノ指令ニ從フテ是ヲ執行ス可シ而シテ上等会計院ハ各省ト均シク該院ニ適当トスル規則ヲ整制施行スルノ權アリ

上等会計院ヨリ閲申スヘキ会計ト金銀出納トヲ該院ニ於テ檢査センカ為メニ其筭計証券及ヒ出納簿冊ヲ檢査セリ該会計擔当ノ官吏ハ該院ヨリ要求セラルヽ所ノ證券ト簿冊トヲ該院ニ出シテ會計檢査ノ用ニ供スヘシ

第四十五　一歳ノ終ニ至リテ支出指令官ヨリ上等会計院ニ申達スル該年度間ノ事務閲

中書「ケバラング、ツスウヘス」ニハ該歳間ノ出納ヲ登記シテ本年ノ部分ト前年ノ部分トニ其收入支出ヲ區別シテ本年度ノ終リニ至リテ贏餘セル所ノ金円ノ員額若干ヲ掲示ス可シ

上等會計院ハ該冊中ヨリ摘集シテ左ノ報告書ヲ編製ス

第一 本年間金円出納ノ本報告書即チ昨年度間ニ出納セシ全額ノ編製ハ該年間收入ノ全額ト支出ノ全額トヲ比較シテ剰餘スルカ或ハ不足ヲ生セシカヲ掲示シ若シ不

足ヲ生セシ片ハ何等ノ信任法（譯者云フ公債又公債證券発行ノ類ヲ云フ）ニ據リテ此ノ欠額ヲ補償セシメ或ハ餘贏アレバ各支出指令官ハ幾許ノ金額ヲ以テ次年度ニ操越セシヤヲ明瞭掲示セン為メニ之ヲ編製スヘキ者トス

昨年度間ノ事務報告ハ一昨年度ノ報告書ヨリ第二ノ報告書ヲ編定ス

第二 一昨年度ノ本會計結算書中現ニ收入支出セル金額ヲ該年中理財法ヲ以テ曩ニ確定セル預算金額ト比較シテ之ヲ帳簿ニ

登録シ斯ク現ニ出納セル金額ト理財法ヲ預算トヲ比較シ之ヲ編製スルガ故ニ預算ノ金額ト現出納ノ金額トノ間違算スルトモ自ラ瞭然タリ而シテ會計事務官ノ管掌セル預算及ヒ会計ニ就キテ附セシ辨明及ヒ保証ハ本會計結算否ニ附録スヘシ

第四十六　各行政年後ノ本會計結算否ハ國会院ノ撿査及ヒ裁決ヲ受クル為メニ第二年中ニ之ヲ議院ニ申達ス可シ

第四十七　毎歳ノ終リ上等會計院ハ皇帝陛下ニ議院事務ノ成迹ヲ掲示セル年報否ヲ上奏シ且ツ其年報書ニハ金円出納ノ監督上ニ就キテ緊要ト認メシ所ノ意見ト其出納事務ノ順序及ヒ其他必要ナルヿノ意見ヲ附録セリ